

香芝東中学校  
学校だより



令和3年4月26日  
校長 井上直規

若葉が目眩しくうつる季節となりました。

入学式後、全校生徒611名で新しい年度がスタートして2週間が経ちました。1年生も徐々にではありますが、中学校生活に慣れてきたのではないのでしょうか。今は、勉強もさることながら、どの部活動に入ろうかと放課後に各部を見学に戻ったり体験したりしている姿があらこちらで見られます。



2・3年生の皆さんも一つ学年が上がりましたが、先輩らしさのオーラが体から溢れ出ている生徒が多いことに驚きました。と同時に「格好いいなあ」と感じています。何気ないことですが、歩いている姿や深みのある挨拶の声、朝の校門や廊下ですれ違うときの自然体のお辞儀、教室で勉強しているときの椅子に座っている姿勢など、ちょっとした仕草に先輩としての貫禄がうかがえます。また、部活動で仮入部している1年生に対し、丁寧に説明している様子なども頼もしいです。これからも期待しています。

さて、本校では『挨拶』を大切にしようと、生徒会を中心に全校生徒・全教職員で取り組んでいます。学校では生徒と教職員を合わせて650名以上の方が生活していますが、中には挨拶が得意の人もいれば苦手な人もいます。大事なことは、「無理矢理大きな声で挨拶しなければならない」ということではなく、「挨拶の意味や良さを知ったうえで、自然にできる挨拶」ということだと思えます。

挨拶にはいろんな力が宿っていると思います。

- 例えば、「感謝を伝えることができる。」
- 「存在を認めているということを示すことができる。」
- 「仲良くなるきっかけになる。」
- 「印象の良さを与えられる。」
- 「緊張をほぐせる。」 などです。



<毎月25日のニコニコあいさつの日>

私(校長)は、気持ち良い挨拶をするために3つのことを心がけています。「笑顔で」「相手の目を見て」「伝わるようなボリュームで」ということです。挨拶で気分が悪くなる人は少ないと思いますし、自分が発した何気ない挨拶でも、時には相手を勇気づける一言になることもあると思っています。

## ～ 挨拶 (あいさつ) ～

私たちが仲よく生活していくうえで、挨拶をする習慣があるということは、本当に素晴らしいことだと思います。もし挨拶というものがなかったら、人と出会っても沈黙があるか、用件を伝えるだけの潤いのない会話があるだけです。

**「おはようございます」「いってきます」「おかえり」「ありがとう」「いただきます」**  
**「ごちそうさま」「すみません」「おやすみなさい」**

挨拶を交わすことで、たとえ喧嘩をしたばかりの二人でも、すっかり仲直りすることもあります。

挨拶の『挨』は軽く触れること、『拶』は強く触れることを意味し、その始まりは禅宗の僧侶の間で使われていた言葉です。昔、禅宗において師匠と弟子が問答をし「悟り」の度合いを試すことを「挨拶」と言ったようです。師匠が弟子にちょっと声をかけてみる。その返事の様子によって「悟り」の度合いを計っていたとされています。

挨拶は二人で述べ合うということですが、二人のうちのどちらが先に声をかけたらよいのかというと、本来「悟っている人」から「修行中の人」に声をかけるのが普通とされ、不思議なことに、このことは今も変わらないようです。

私たちの世界(大人の世界)はどうでしょうか。目上の者は、「挨拶はそっちから(下の者から)するものだ。」と思いついてはいないのでしょうか。禅宗では、先に声をかける人が悟りを開いている人なのです。

